



第93回 フランスの宗教戦争

1 イタリア戦争とフランス

- ・フランスでは、1328年に（ ）が成立していた。
→しかし1339年以降、イギリスとの間に（ ）が続いていた。



シャルル7世

- ◆（ ）（在位 1422～1461年）
- ・（ ）の活躍などにより、1453年、百年戦争に勝利した。
→フランスの王権はさらに強化され、国内はほぼ国王の支配下に入った。



シャルル8世

- ◆シャルル8世（在位 1483～1498年）
- ・1494年、シャルル8世は、対外進出を目指し、（ ）に侵入した。
→イタリア政策を続けていた神聖ローマ帝国と戦争状態となった。
※これを（ ）という。



フランソワ1世

- ◆（ ）（在位 1515～1547年）
- ・1519年、（ ）のカルロス1世が、スペイン王に続いて神聖ローマ皇帝にもなった。
→両国に挟まれたフランスは、両国を支配するハプスブルク家と激しく争い、イタリア戦争が激化した。

<オスマン帝国とフランス>

- ・ハプスブルク家に対して劣勢だったフランスは、当時の超大国であったイスラーム勢力の（ ）に、援助を求めた。
- ・1536年、オスマン帝国の（ ）は、フランスのフランソワ1世に対して、（ ）と呼ばれる一種の治外法権を与えた。

- ・1559年、（ ）により、イタリア戦争は終結した。



2 ユグノー戦争とフランス

- ルターによって始められた宗教改革は、フランスにも広がっていた。
→フランスでは、16世紀半ばから（ ）と呼ばれた（ ）の数が増加しており、カトリックとの対立が表面化していた。



シャルル9世

- ◆（ ）（在位 1560～1574年）
 - ・病弱であり、母の（ ）が摂政として政治を行った。
 - ・1562年、両派の宗教対立から、（ ）という内乱が勃発した。
→外国勢力の介入もあり、1598年まで30年以上続いた。

- ・1572年、ユグノーの王族の結婚式が行われた際、カトリーヌの陰謀により、カトリック側がユグノーたちを虐殺した（ ）が起こった。
→この大事件により、両派の対立はいっそう激化した。



カトリーヌドメディシス
メディチ家出身。フォークをフランスに伝えたのは彼女である。



映画『王妃マルゴ』
サンバルテルミの虐殺を描いた数少ない映画です。ちょっと生々しい。



サンバルテルミの虐殺

サンバルテルミの祝日に、ギーズ公率いるカトリック側が、ユグノーを虐殺した。この日は、シャルル9世の妹であるマルゴと、ナヴァール公アンリ（ユグノーであり後のアンリ4世）の結婚式のため、多くのユグノーがパリに集まっており、そこを狙われた。

3 ブルボン朝の成立



アンリ4世
政治力のある有能な王であり、民衆に慕われた。

- ・1589年、国王が暗殺されてヴァロワ家が断絶した。
→ブルボン家のアンリ4世が国王に即位し、ブルボン朝が成立した。

☆フランス王国（ ）（1589～1792年、1814～1830年）

- ◆（ ）（在位 1589～1610年）
 - ・アンリ4世はユグノーであったが、即位後の1593年にカトリックへ改宗し、国民の大多数であるカトリックの不満をやわらげた。

- ・1598年、（ ）を出して、ユグノーの信仰の自由を認めた。
→フランスの国教はカトリックと定められたが、個人はカトリックとユグノーを自由に選べるようになった。
→これによりユグノー戦争はようやく終結した。
→フランスはアンリ4世のもとで安定し、絶対王政の基礎が確立された。
※司法機関である高等法院を拠点に、王権の拡大に抵抗する貴族もいた。
- ・1604年、（ ）を設立したが、すぐに活動停止した。
→1608年、カナダの（ ）への植民を開始した。